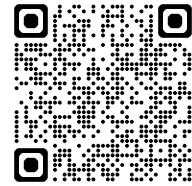


# 1 2 キーの音階を覚える

音感エクササイズ E002



## 目的

音楽には1 2のキー(調)があります。メロディやコード進行を移調して歌ったりする場面だけではなく、メロディやギターのフレーズを分析したり、コードを覚えたりする場面でも1 2キーの音階を覚えておけば何かと役立ちます。

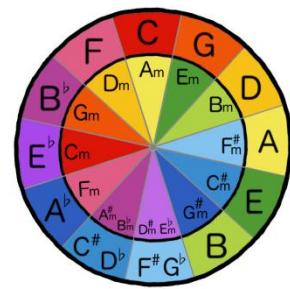
### POINT

- コードは音階(スケール)の三度堆積
- 相対音感を鍛えながら1 2キーの音階を覚える

「ギター・コードの仕組み」で解説したようにギターのコードは音階(スケール)の三度堆積で作られます。そのため1 2のキー(調)のスケールを覚えておくと、コードの構成音を理解して導き出せるようになります。

またメロディやフレーズを1 2のキーで弾いたり歌ったりする練習を積み重ねると、メロディやフレーズがどのように組み立てられているかを分析できるようになってきます。そうした経験の蓄積が相対音感を鍛えることになり、作曲したりアレンジしたりすることにも繋がっていくのです。

1 2キーの音階を覚えるエクササイズを始めてみませんか。



### Comment

#### 【1 2キー エクササイズの概要】

Cキーの調性を持つ音階=Cメジャー・スケール(別名:Cイオニアン・スケール)のエクササイズからはじめましょう。シャープやフラットのついた音が出てこないため、たいていココから始めます。

下図の楽譜の上段は路地裏式音階、下段には路地裏式ディグリー・ネームを表記しています。音階の音名と度数が頭の中で一致してくるまで繰り返し歌って覚えましょう。

#### Cメジャー・スケール(別名:Cイオニアン・スケール)

Track\_E002a

三度堆積のエクササイズもやっておくといいです。ギターのコードはスケールの構成音を三度の音程で積み重ねることで作られます。そのため音階を三度堆積の順番で歌えるようになっておけば、コードを素早く導き出せるようになります。

1・3・5・7度の四和音は「コードトーン」、9・11・13度を「テンション・ノート」と呼びます。9・11・13度は2・4・6度と同じ音なのですが、9th・11th・13thという呼び名にも慣れときましょう。

スケールの構成音の並び順が変わりますが、音名と度数が頭の中で常に一致してくるまで続けます。

### Cメジャー・スケールの三度堆積



Track\_E002b

#### Comment

#### 【路地裏式相対音感エクササイズ】

路地裏式ディグリー・ネームを活用した路地裏式相対音感エクササイズを紹介します。

従来の音楽教育には、音階の度数に「ひ・ふ・み・よ・い・む・な・や」のような名称を付けて歌うという発想がありませんでしたから、相対音感を鍛える方法としては、耳から聞こえてくる音程をひたら意識するという受動的なトレーニング方法しかありませんでした。ここで紹介する路地裏式相対音感エクササイズは、度数に名称を付けて歌いながら相対音感を鍛えるという新発想の能動的トレーニングになっています。

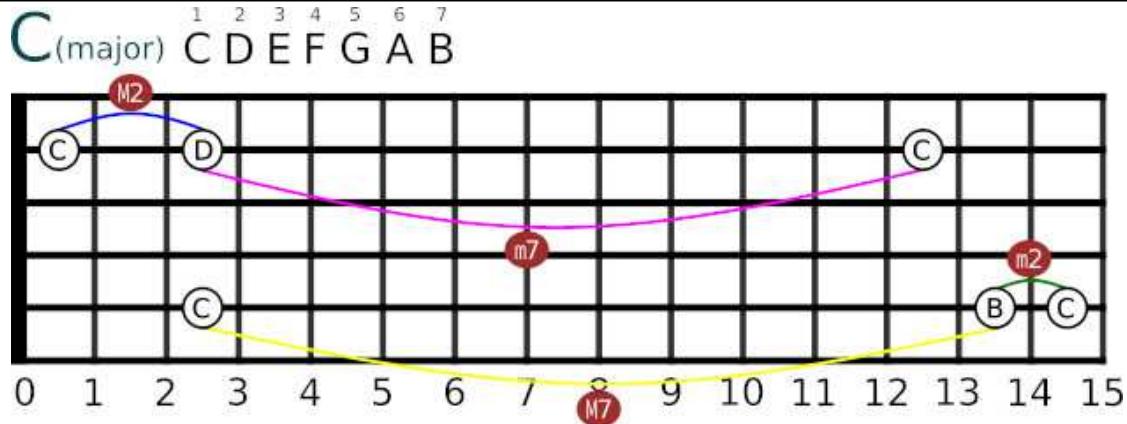
### Cメジャー・スケールの路地裏式相対音感エクササイズ(順行)



Track\_E002c

この路地裏式相対音感エクササイズは、Cメジャー・スケールを構成する七音の音程をすべて覚えられるように考えられています。Cメジャー・スケールの主音であるC音(ド)からの音程とC音(ド)までの音程の転回を意識して歌うのがコツです。「転回」という概念は少し説明が必要かもしれません。

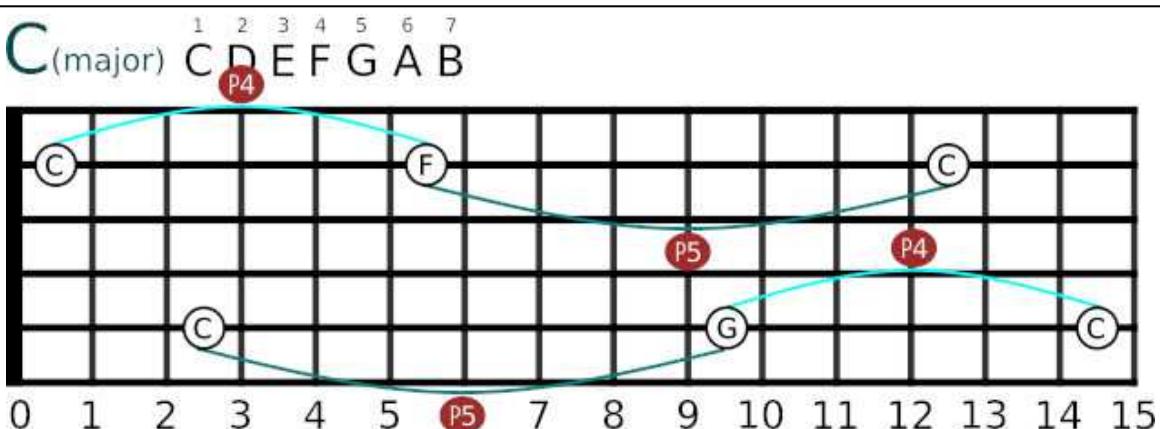
## 2度と7度の転回



上図はC音(ド)からの音程とC音(ド)までの音程を表したものです。長二度(M2)のD音は短七度(m7)に転回し、長七度(M7)のB音は短二度(m2)に転回しているのが分かるとおもいます。かいつまんで言うと2度と7度で長(M)・短(m)がひっくり返っているわけです。

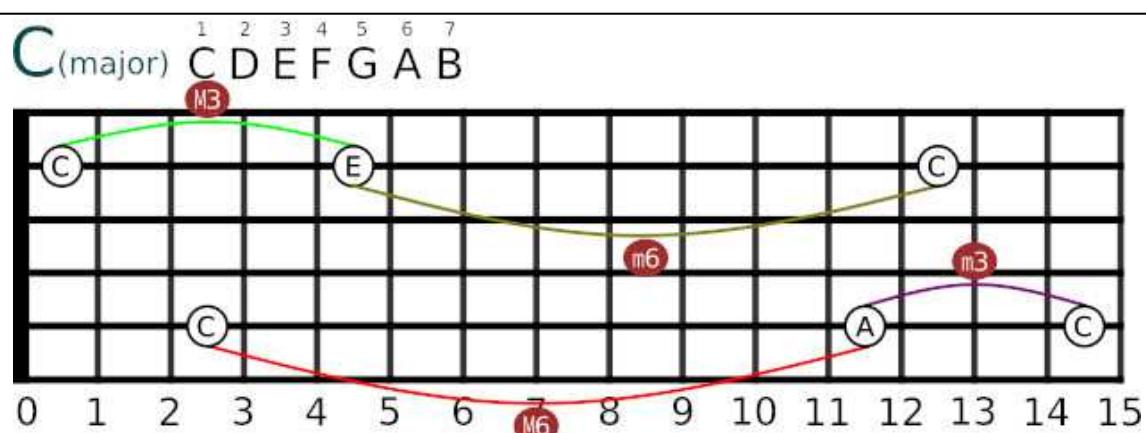
4度と5度の転回図も考察してみると、完全四度(P4)のF音は完全五度(P5)に転回し、完全五度(P5)のG音は完全四度(P4)に転回しています。

## 4度と5度の転回



ついでに3度と6度の転回も考察してみましょう。長三度(M3)のE音は短六度(m6)に転回し、長六度(M6)のA音は短三度(m3)に転回しているのが分かります。

## 3度と6度の転回



この転回の仕組みを知っておくと、後々ハモリを考えるような場面に出くわしたときに何かと役に立つと思います。メロディのハモリは主旋律の三度上と三度下で作られる場合が多いのですが、三度下と

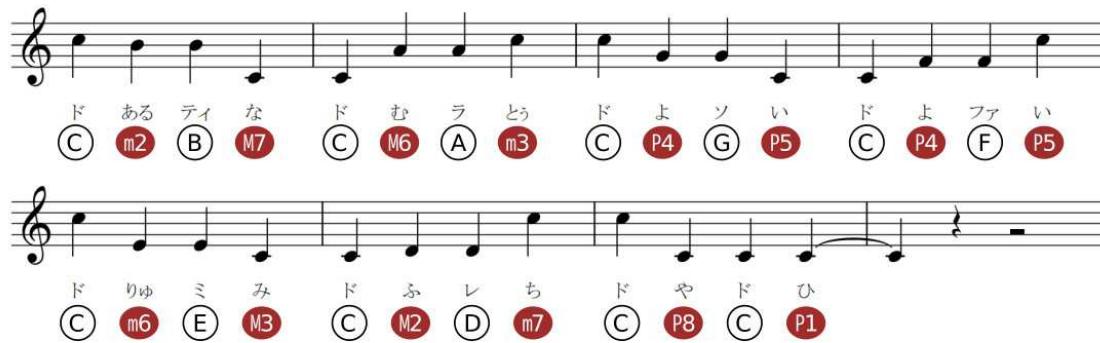
いうのは要するに六度音程を転回したもので、三度と六度の長・短が反転することを知っておけば容易にハモリをつけることができるからです。

逆行する路地裏式相対音感エクササイズもやっておきましょう。このエクササイズは、脳内に音程(インターバル)のデータベースを構築するのが目的で、効果を実感するまでには約三ヶ月くらいかかります。

### ■ Cメジャー・スケールの路地裏式相対音感エクササイズ(逆行)



Track\_E002d



逆行する路地裏式相対音感エクササイズもやっておくと効果倍増です。このエクササイズは、脳内の記憶回路に音程のデータベースを構築するのが目的ですから、相対音感が鍛えられている効果を実感するまでには約三ヶ月くらいかかるかもしれません。

### Comment

#### 【 12キーを覚える順序 】

キーは十二個もありますので、どういう順序で覚えていけばいいのかということが悩みどころです。、「五度圏」という便利な図がありますので、それに従って覚えていきましょう。

十二個のキーはシャープ系とフラット系に分けることができます。シャープ系のキーは「G・D・A・E・B・F♯」、フラット系のキーは「F・B♭・E♭・A♭・D♭・G♭」です。C♯とD♭、それからF♯とG♭は呼び名が異なるだけの同じキーです。シャープ系で使ったり、フラット系で使ったりします。

五度圏の図を見ると、シャープやフラットの数が一つずつ増えていますが、この五度圏の並び順どおりに覚えていくと覚えやすいです

### 五度圏

